

Touch, Contact, Bones:  
Steve Paxton + Lisa Nelson Dance Project

## Night Stand [ナイト スタンド]

2009年5月17日(日) 18:00 開演 \*17:30 開場  
スパイラルホール(スパイラル3F)

### コンタクト・インプロヴィゼーションの創始者スティーヴ・パクストン、34年ぶりの来日公演

スパイラルは、2009年5月17日(日)、世界的なダンサーであるスティーヴ・パクストンとリサ・ネルソンによるダンス公演「Night Stand(ナイト スタンド)」をスパイラルホール(スパイラル3F)にて開催致します。

スティーヴ・パクストンは、1960~70年代にニューヨークの前衛舞踊シーンを飾ったアメリカ・ポスト・モダンダンスの中心人物の1人です。社会の慣習や伝統にとらわれず、身体のあらゆる感覚と行為の枠組みを問い直したその活動は、近代舞踊史におけるひとつのターニング・ポイントとなり、やがてコンテンポラリーダンス、さらにはその後のさまざまなボーダレスな芸術活動へ繋がっていきました。特に、彼が創始した「コンタクト・インプロヴィゼーション※」は、ダンサーをはじめとする身体表現者たちにとって必須技法であるとともに、コミュニティ・ダンスやセラピーの分野にも広く浸透し、影響を及ぼしてきました。

今回、34年ぶりの来日を果たすパクストンが披露する「Night Stand」は、1975年以来コンタクト・インプロヴィゼーションを中心にコラボレーションを続けてきたリサ・ネルソンとの活動の集大成ともいえる作品です。舞台は、世界的に高い評価を得ているアメリカの現代音楽家ロバート・アシュレイによる抽象的な音楽が流れるなか、すべてが暗闇の中で展開していきます。照明がゆっくりと暗い空間を照らし出し、身体の動きと重なり呼応していきます。瞑想的で、緩やかな時間のなかで、2人が長年にわたり



“Night Stand” Lisa Nelson and Steve Paxton  
Photo: Gil Grossi

追求してきたダンス、即興、演劇のあらゆる要素が展開する繊細な作品です。

本公演は、DDJCが主催する「タッチ、コンタクト、ボーンズ:スティーヴ・パクストン+リサ・ネルソン ダンス プロジェクト」との連携により開催するものです。パクストンの芸術思想と活動、彼独自の身体へのアプローチと方法論の実際を、本人との直接の接触を通して学び、対話し、新たな芸術の在り方をともに追求する相互交流の場となることを目指します。プロジェクトでは、本公演のほか国際芸術センター青森、山口情報芸術センター、京都芸術センターなど各地を巡回しながら展示やワークショップが行われます。パクストンの芸術世界に多くの人々が触れる、またとない機会となるでしょう。

※コンタクト・インプロヴィゼーション…ダンスの即興形式。他者との接触をおとして動かし動かされながらそこに生じる力に身体を委ねることで、既存のダンス・イメージを越えた新しい動きの経験を可能とする。ダンスの訓練/振付/上演の手法としてのみならず、自己探求やコミュニケーションの活動として欧米を中心に世界中で様々な人々によって行われている。

掲載や取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

#### ◆「Night Stand」公演について

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部  
担当 加藤、清水  
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848  
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23  
E-mail [press@spiral.co.jp](mailto:press@spiral.co.jp) WEB [www.spiral.co.jp](http://www.spiral.co.jp)

#### ◆「Steve Paxton + Lisa Nelson Dance Project」について

DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE (DDJC)  
担当 田坂、小鹿、印牧  
TEL 03-3470-2664 FAX 03-3470-2259  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-21-1  
E-mail [ddjc@ddjc2009.org](mailto:ddjc@ddjc2009.org) WEB [www.ddjc2009.org](http://www.ddjc2009.org)

## 公演概要

ステイーヴ・パクストン+リサ・ネルソン ダンス プロジェクト 「Night Stand(ナイト スタンド)」

日 時:2009年5月17日(日) 17:30 開場/18:00 開演  
 会 場:スパイラルホール(スパイラル 3F) 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23  
 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1 出口すぐ  
 料 金:前売 A席 5,000円/B席 3,500円  
 当日 A席 5,500円/B席 4,000円(全席自由)

ダン ス:ステイーヴ・パクストン、リサ・ネルソン	主 催:DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE (DDJC)
照明デザイン:キャロル・マリンス	共 催:国際芸術センター青森(予定)、
音 楽:ロバート・アシュレイ/ピョートル・マモノフ	京都の暑い夏事務局、
初 演:2004年 モンペリエ(フランス)	株式会社ワコールアートセンター、
	早稲田大学演劇博物館グローバル COE、
	近畿大学国際人文科学研究所、
	財団法人山口市文化振興財団
	助 成:日米友好基金/Asian Cultural Council

## チケット情報

## 3月17日(火)チケット発売開始

スパイラル 03-3498-1171(スパイラル代表)  
 スパイラルオンラインストア <http://store.spiral.co.jp>  
 チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:393-631]

## ダンサー・プロフィール

## ステイーヴ・パクストン Steve Paxton ダンサー/振付家



Photo: Jordi Bover

1939年アメリカ、アリゾナ州フェニックス生まれ。  
 現在はヴァーモント州に住み、有機農業を営みながら、アメリカとヨーロッパを中心にダンスと振付の創作活動、講義、公演を行っている。マーサ・グレムとホセ・リモンから現代舞踊を学んだ後、バレエ、合気道、ヨガ、太極拳、ヴィパッサナー瞑想などを修得。1961-65年マース・カニングハム舞踊団のダンサーとして世界各地で公演。60年代ジャッドソン・ダンス・シアター、70年代グランド・ユニオン、80年代タッチダウン・ダンス(視覚障害者のためのダンス=英国)の創始メンバー。1972年ニューヨークでコンタクト・インプロヴィゼーション(C.I.)を発表。現在 C.I.は世界各国で実践され、その国際的なネットワークとして定期刊行物 *Contact Quarterly*(パクストンは共同編集者/執筆者)が発行されている。全米芸術基金(NEA)、ロックフェラー基金、グッゲンハイム・フェローシップなど助成多数。1987年と1999年にニューヨークのベッシー賞(ダンス&パフォーマンス部門)受賞。近年では、ミハエル・パリニコフ、トリシャ・ブラウン、リサ・ネルソン等とコラボレーションを発表。1986年以降、C.I.をベースにした“Material for the Spine”を新たなメソッドとして展開し、C.I.を手がけてから現在に至る約40年間、文化としてのダンスの創作と、即興の“実相”の探究を続けている。

## リサ・ネルソン Lisa Nelson 振付家/即興舞踊家/ビデオ作家



Photo: Daniel Lepkoff

1970年代初期から、上演における感覚の役割や動きの観察を探求し続けている。ビデオとダンスの活動を通して、自然発生的な作舞/上演法である“Tuning Scores”を展開。これはネルソンがサイトスペシフィックな観測所(Observatories)と考えている、複数のアーティストが行なうアンサンブル・パフォーマンスのためのコミュニケーション形式である。この独自の方法を中心に欧米、中国、豪州、イスラエル等で、上演活動、指導、ダンスの創作活動を行い、パクストン、ダニエル・レブコフ、スコット・スミス等、多数の先駆的アーティストたちとともに長年に渡るコラボレーションを続けている。1987年にニューヨークのベッシー賞(ダンス&パフォーマンス部門)を、2002年にアルバート芸術賞を受賞。30年間にわたり、ダンスと即興に関する国際的な定期刊行物 *Contact Quarterly*の共同編集者として活動。即興ダンスのビデオ制作、アーカイブ及び配給を行うビデオダ社(Videoda)のディレクターも務める。現在、アメリカ、ヴァーモント州在住。

## **Touch, Contact, Bones** Steve Paxton + Lisa Nelson Dance Project

タッチ、コンタクト、ボーンズ スティーヴ・パクストン+リサ・ネルソン ダンス プロジェクト

**2009年4月26日（日）-8月31日（月）**

**AOMORI -KYOTO -TOKYO -YAMAGUCHI**

### **DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE (DDJC)**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-21-1

原宿グリーンランド 102 プロセスアート内

TEL / FAX 03-3470-2664 / 2259 e-mail ddjc@ddjc2009.org

<http://www.ddjc2009.org> (担当: 田坂、小鹿、印牧)

2009.2.16

# 1 企画概要

## Touch, Contact, Bones Steve Paxton + Lisa Nelson Dance Project

タッチ、コンタクト、ボーンズ スティーヴ・パクストン+リサ・ネルソン ダンス プロジェクト

1960 -70 年代にニューヨークの前衛舞踊シーンを飾り、圧倒的な技法をコンテンポラリーダンスにもたらしたコンタクト・インプロヴィゼーション (C.I.) の創始者スティーヴ・パクストンが、34 年ぶりに待望の来日をはたします。

日本4 都市で開催される「タッチ、コンタクト、ボーンズ」は、パクストンとリサ・ネルソン（即興舞踊家）の作品と新たな手法を、ワークショップ/公演/展覧会などを通して紹介するダンスプロジェクトです。

### 開催日程：2009 年 4 月 26 日（日）-8 月 31 日（月）

青森	国際芸術センター青森 4月26日（日）-5月12日（火）	スティーヴ・パクストンワークショップ+映像展示+トーク
京都	京都芸術センター 4月29日（水・祝）-5月6日（水・祝）	リサ・ネルソン ワークショップ
東京	スパイラルホール 5月17日（日）	公演 「Night Stand」
	早稲田大学国際会議場 5月21日（木）	レクチャー/デモンストレーション+シンポジウム
	四谷アート・ステュディオム 5月末開催予定	レクチャー/デモンストレーション+ダイアログ+映像・資料展示
山口	山口情報芸術センター 5月24日（日）-8月31日（月）	映像インスタレーション（展覧会）+映像・資料展示+レクチャー/ デモンストレーション+トーク

主催：DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE (DDJC)

共催：国際芸術センター青森（予定）/京都の暑い夏事務局/株式会社ワコールアートセンター

早稲田大学演劇博物館グローバルCOE/近畿大学国際人文科学研究所/財団法人山口市文化振興財団

助成：日米友好基金/Asian Cultural Council

### 招聘アーティスト

スティーヴ・パクストン | ダンサー/振付家（アメリカ）

リサ・ネルソン | ダンサー/振付家（アメリカ）

キャロル・マリンス | 照明デザイン（アメリカ）

フローレンス・コリン | 映像インスタレーション（ベルギー）

バプティスト・アンドリアン | 映像インスタレーション（ベルギー）

## 企画趣旨

アメリカ・ポスト・モダンダンスの中心人物であり、独自の即興形式である、＜コンタクト・インプロヴィゼーション＞（以下C.I.）の創始者スティーヴ・パクストン。振付家／ダンサーとしてC.I.の発展に重要な役割を果たしてきたリサ・ネルソン。本企画は、この二人の活動や思想を、青森、京都、東京、山口の四都市を結ぶ、ワークショップ／公演／展覧会／レクチャー／ダイアログなどを通して、学び対話することで、身体の可能性を多角的に探求していくダンスプロジェクトです。とりわけ、34年ぶりの来日を果たすパクストンが、1986年から取り組んでいる“Material for the Spine”（背骨のためのマテリアル）の方法論は、ワークショップ（青森）、映像インスタレーション（山口）を通して日本で初めて紹介されます。合気道、ヨガ、ヴィパッサナー瞑想などのアジアの身体技法を取り入れたパクストンの集大成である“Material for the Spine”は、普段意識することのない「背骨」に注目し、私たちに自明となっている身体表現のあり方を、根本から問いかけていきます。

1960年代半ばに登場したアメリカのポスト・モダンダンスは、社会慣習や伝統にとらわれず、身体のあらゆる感覚と行為の枠組みを問い直し、20世紀の舞踊史の流れを大きく方向転換させました。それらは、現在欧州や日本、アジア各地で多様な展開をみせているコンテンポラリーダンスの基盤であると同時に、身体に関わる創造的活動の分野に未だ強い刺激を与え続けています。日本においては、パクストン、ネルソン、そしてC.I.への関心は多大であるにもかかわらず、これまで本格的な紹介、招聘企画はほとんど皆無でした。即興＝インプロヴィゼーションを通して、長きにわたり身体表現を追求してきたパクストンとネルソンとの出会いは、日本のダンサー、研究者だけでなく、教育やセラピーの世界をはじめ、日本の様々な領域の人々が、新たな創造のあり方を発見する絶好の機会となることを確信しています。

注：ダンスの即興形式。他者との接触をとおして動かし動かされながらそこに生じる合力に身体を委ねることで、既存のダンス・イメージを越えた新しい動きの経験が可能とする。ダンスの訓練／振付／上演の手法としてのみならず、自己探求やコミュニケーションの活動として欧米を中心に世界中で様々な人々によって行われている。

## 2 プログラム

### ■青森.....

#### 国際芸術センター青森（ACAC）

#### アーティスト・イン・レジデンス・プログラム

##### [1] スティーヴ・パクストン ワークショップ“Material for the Spine”（全10日間）

4月26日（日）-5月6日（水・祝）[5月1日（金）休] 展示棟 ギャラリーA

受講料：50,000円（通し参加・宿泊費別）／62,000円（通し参加・宿泊費込）1日5時間程度

定員：20名（先着順）

##### [2] 映像展示

4月26日（日）-5月12日（火）展示棟 ギャラリーB、館内各所

入場料：無料

##### [3] トークイベント「1960-70年代のダンスシーン（仮）」

5月9日（土）14:00-15:30 展示棟 ラウンジ（入場無料）

入場料：無料

定員：50名（先着順、申し込み不要）

会場：国際芸術センター青森（ACAC）

〒030-0134 青森市合子沢字山崎 152番6 <http://www.acac-aomori.jp/>

お問合せ：DDJC 事務局 TEL 03-3470-2664 FAX 03-3470-2259 e-mail [workshop@ddjc2009.org](mailto:workshop@ddjc2009.org)

■京都.....

京都の暑い夏事務局／京都の暑い夏 2009 第 14 回京都国際ダンスワークショップフェスティバル

リサ・ネルソン ワークショップ“Tuning Scores” (全 7 日間)

4月29日(水・祝) - 5月6日(水・祝) [5月1日(金) 休]

料金：20,000 円／通し 3,500 円／1 回

定員：25 名 (通し優先) ※5月6日は公開ワークショップ

会 場：京都芸術センター

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2 <http://www.hotsummerkyoto.com>

お問合せ：京都の暑い夏事務局／京都の暑い夏 2009 第 14 回京都国際ダンスワークショップフェスティバル

TEL/FAX 075-722-2878 e-mail [info@hotsummerkyoto.com](mailto:info@hotsummerkyoto.com)

■東京.....

1.....スパイラルホール

公演「Night Stand」

5月17日(日) 18:00 開演

ダンス：スティーヴ・パクストン、リサ・ネルソン

照明デザイン：キャロル・マリンス

音楽：ロバート・アシュレイ／ピョートル・マモノフ

初演：2004 年 モンペリエ (フランス)

料金：[前売] A 席 5,000 円 B 席 3,500 円 [当日] A 席 5,500 円 B 席 4,000 円 (全席自由)

会 場：スパイラルホール (スパイラル 3F) 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

お問合せ：スパイラル TEL 03-3498-1171 [代]

2.....早稲田大学 演劇博物館グローバル COE (舞踊研究コース)

レクチャー／デモンストレーション＋シンポジウム

5月21日(木) 18:00 - 21:00 (予定)

入場料：無料

会 場：早稲田大学国際会議場 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学内

お問合せ：早稲田大学 演劇博物館グローバル COE (舞踊研究コース)

TEL 03-5286-8110 (事務所直通) FAX 03-5286-8119 e-mail [gcoe-enpaku-event@list.waseda.jp](mailto:gcoe-enpaku-event@list.waseda.jp)

3.....四谷アート・ステュディウム (近畿大学国際人文科学研究所 東京コミュニティカレッジ)

[1] レクチャー／デモンストレーション＋ダイアローグ

5月末開催予定 (日時未定)

入場料：未定

[2] 映像／資料展示：スティーヴ・パクストン展

5月開催予定 Gallery Objective Correlative (四谷アート・ステュディウム 1 階)

入場料：無料

会 場：四谷アート・ステュディウム 〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-5 <http://www.artstudium.org>

お問合せ：四谷アート・ステュディウム

TEL 03-3351-0591 FAX 03-3353-7300 e-mail [kindai-tokyo-office@itp.kindai.ac.jp](mailto:kindai-tokyo-office@itp.kindai.ac.jp)

## ■山口.....

山口情報芸術センター (YCAM)

### [1] 展覧会：映像インスタレーション “Phantom Exhibition”

5月24日(日) - 8月31日(月) スタジオB

入場料：無料

### [2] レクチャー／デモンストレーション＋トーク

5月24日(日) スタジオB ホワイエ

参加料：1,000円 ※アフタートークのみは無料

### [3] 映像／資料展示

5月24日(日) - 8月31日(月) 2F ギャラリー

入場料：無料

会場：山口情報芸術センター 〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp/>

お問合せ：TEL 083-901-2222 FAX 083-901-2216 (担当：廣田、渡部) e-mail [information@ycam.jp](mailto:information@ycam.jp) (YCAM)

## 3 資料

### “Material for the Spine” by スティーヴ・パクストン

“Material for the Spine (背骨のためのマテリアル)”は1986年に始められた、シンプルなダンスのためのシステムです。それは頭や背骨、骨盤など骨の感覚に基づいたシステムであり、骨の感覚から形成される自己イメージに沿って展開されてゆきます。つまり、身体の中心を探求するためのシステムなのです。

その素材(マテリアル)は、パクストンが考案したコンタクト・インプロヴィゼーション(C.I.)という即興形式の実践や学習法から抽出されたものです。そのためクラスでは、C.I.も経験することになります。ただ、C.I.には他者とのコミュニケーションや遊びなどの要素が多く含まれますが、“Material for the Spine”では、呼吸や動きの精確さに重点が置かれています。そのため、より具体的な技術を追求するものであり、同時に瞑想的なソロの実践であるといえます。

他のダンステクニックとの関係性にも気がつくことでしょう。中でも、通常のテクニックではあまり指摘されることのない骨盤の動きについて、このシステムでは多くのことを学びます。動きは背骨に始まり、股関節、大腿、肩甲骨、そして腕へと広げられてゆきます。身体の中心を探求する活動は、全身を取りこまずにはいません。(パクストンによるクラス説明より)

### “Tuning Scores” by リサ・ネルソン

“Tuning Scores”——作舞、コミュニケーション、イメージ感覚についての実験室。ここでは、イメージの身体的な基盤についてのスコアを通して、自身の空間や時間、アクションや欲求というものに気づき、スコアから自然発生的に生じるコンポジションと出会うでしょう。そのスコアは、受講者間にコミュニケーションの枠組みを提供するものでもあります。

“Tuning Scores”は、「ダンスを見る時、人はそこに何を見るのか」を常に問いかけます。(ネルソンによるクラス説明より)

## DDJC実行委員会構成

役職	氏名	所属
代表・委員長	中谷美二子	美術家、(株) プロセスアート代表取締役
副委員長	浜田剛爾	美術家
	福本まあや	舞踊研究者、富山大学芸術文化学部助教
監査役	玉井祥子	アートコーディネーター、元オーストラリア大使館文化担当官
実行委員	岡田勉	スパイラル／(株) ワコールアートセンター チーフキュレーター
	阿部一直	山口情報芸術センター チーフキュレーター
	森裕子	ダンサー／振付家、京都の暑い夏事務局代表
	岡崎乾二郎	美術家、近畿大学国際人文科学研究科教授
	片岡康子	早稲田大学大学院文学研究科客員教授
アドバイザー	浅田彰	京都造形芸術大学大学院長
	石井達朗	舞踊評論家
	國吉和子	舞踊研究者
	外山紀久子	舞踊研究者、埼玉大学教授
	坂本公成	ダンサー／振付家、コンタクト・インプロヴィゼーション指導者
	山田せつ子	ダンサー／振付家、京都造形芸術大学教授
	立木燐子	舞踊評論家、ジャーナリスト
協力	大脇理智	山口情報芸術センター
	川口隆夫	ダンサー／振付家
	Jonathan M. Hall	映画研究者、カリフォルニア大学助教授
事務局	小鹿由加里	企画制作事務所アンダーライン
	田坂博子	(株) プロセスアート